

FACT⑥

# ドライバーの声に耳を傾け 現場を見直し滞留時間削減

キリン  
品質

運びきる  
力があります。

提案力  
に自信があります。

品質  
にお届けします。

人手不足の深刻化でドライバーに支持される現場作りが一層求められている。とりわけトラックの滞留時間削減は運行生産性向上につながる最重要課題だ。アンケートで寄せられたドライバーの声に応え、積み込み作業の時間短縮を行った九州支社の事例を紹介する。

キリングroupプロジェクトクス（KGL）の加藤元社長は「ドライバーを軸で物流を考えることに徹する」という。その一貫で全国の拠点でトラックの構内滞留時間削減に継続して力を注いでいる。

全国の拠点と同様に滞留時間削減に取り組むKGL九州支社の朝倉支店では、昨年度、ドライバーアンケート（※注）でも「製品入庫時間が長い」との声を受け、同支店に所属するKGLと現業子会社のケールサービス九州のスタッフで改善チームを編成。改めて実態調査に乗り出した。その結果、車両への製品の積み込み作業がネックになっていくことが分かった。

同支店は7つに区分された保管庫と8つのトラックバスから構成されている。そのうち2つのバスはピッキングの済んだ出荷待ちの製品に場所をふさがれ、フォーク作業ができない状態だった。バスに面する保管庫を使用している外販顧客の在庫量が増加し、庫内が狭隘化していた。そこで支店全体のゾーニングと保管ロケーション



筒井浩司KGL朝倉支店副支店長（前列右）と改善チームのメンバー

※注 KGLでは2014年から全国の配送パートナーのドライバー約1400人を対象に定期的にアンケートを実施している。

を見直し、庫内に仮置きができる場所を確保した。これで積み込みに使えるバスが2つ増えた。

パレット積みされた製品のストレッチフィルムを入荷時に剥ぎ取り、出荷時に再び巻き付ける作業も、バスが混雑する要因の一つになっていた。これについても出荷時の作業開始時間の前倒しや専用の作業エリアを設けるなどの工夫によって、フォーク作業員の待ち時間を短縮した。

人員配置も改めた。従来はフォーク作業員の投入人数を、その日の総出荷ケース数を元に決定していた。しかし、実際の積み込み作業は出荷前日と当日午前中の2回に分かれる。総量は同じでも当日分が多いとフォーク作業が終わらずにドライバーを待たせしてしまうことがあった。そこで当日分の作業量で投入人数を決定するように変更し、必要な場合は作業開始時間を前倒しすることにした。

それと並行して応援体制を強化した。同支店と近接するKGL福岡支店のフォーク作業員を、当日分が多い日には事前に手配して応援に送る。福岡支店の業務はキリンビール福岡工場の構内物流がメイン、外販も扱う保管型センターの朝倉支店とは業務量の波動が違うため、マンパワーを有効活用できる。

一連の取り組みで、朝倉支店の積み込み作業の平均終了時間は前年度より48分早まり、トラック1台当たりの構内滞留時間を24%削減できた。朝倉支店の筒井浩司副支店長は「出入りのドライバーたちから『かなり早くなった』と言ってもらえるようになった。今期に入って終了時間はさらに早まっている。今後も改善活動を継続していく」と意気込んでいる。



物流に関するご相談・お問い合わせ <http://www.kirin-logistics.co.jp/>

キリングroupプロジェクトクス株式会社

〒164-0001 東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス

キリングroupプロジ

